

平成27年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)  
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、  
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
1	1	16:30	夕方	戸建住宅	煙式	居間	就寢室	ストーブ	居住者	洗濯物がストーブ上に落下	火災発生時居住者は不在であり、帰宅した時に玄関で住宅用火災警報器の警報音ときな臭さに気づき、住宅内に入ると居間のストーブの前で炎が出ていた。消防に通報後、自ら消火するが完全に消せず、外に避難し、到着した消防隊が消火した。
2	1	22:19	深夜	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者(45歳女性)は、台所の簡易型ガスこんろ(カセット型)に鍋を掛け、ゆで卵を作ったまま就寝してしまっ。台所に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が作動、本人がその警報音で目を覚まし、119番通報した。ガスこんろは、カセットのガスが無くなり、自然に火が消えたことから、火災に至らなかった事例である。
3	1	9:00	朝	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	隣人	プロパンガステーブルの消し忘れ	居住者(69歳女性)が、台所のプロパンガステーブルに鍋を掛け、そばつゆを温めていたのを忘れ、買い物に出かけたところ、鍋が焦げ、発煙、居間に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が作動、隣人がその警報音に気づき、119番通報し、消防隊がプロパンガステーブルの火を消したことから、火災に至らなかった事例である。
4	1	15:20	夕方	戸建住宅	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	鍋の空炊き(寝込んでしまった)	居住者(80歳女性)が台所でカセットコンロに鍋をかけたまま、居間で読書をしていたところ居眠りをしてしまい、居間隣接の就寢室の住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、カセットコンロの火を消し、充填している煙を排出し消防へ通報、火災に至らなかった事例。
5	1	13:20	昼	戸建住宅	煙式	その他(調査中を含む。)	階段	ストーブ	居住者	ストーブの輻射熱により可燃物に着火	一般住宅居住者の男性が2階居間のストーブを点火した状態で1階に居たところ、ストーブ前に置いていた椅子が輻射熱により着火した。発生した煙により階段室の煙感知器が発報、警報音で気づき119番通報に至ったもの。水道水をかけたのちに椅子を台所に運び、更に水をかけて初期消火を実施。
6	2	3:29	早朝	アパート・マンション等	煙式	就寢室	就寢室	放火(疑いを含む。)	居住者	放火(疑いを含む。)	一般住宅に住む女性が、就寢室に置いていた洗濯物かご内の衣類に火を点け、母親が同室に設置していた住宅用火災警報器の鳴動で気づき消火したものを。
7	2	6:34	早朝	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	隣人	鍋の空炊き(寝込んでしまった)	市営住宅に住む女性が酒によった状態で帰宅し、片手鍋でハンバーグを温めようとしてこんろの火をつけたまま寝込んでしまい、充填した煙により台所に設置していた住宅用火災警報器が発報、警報音とに気づいた近隣住民が119番通報し、到着した消防隊がこんろの火を消したものである。
8	2	4:19	早朝	戸建住宅	熱式	居間	その他(不明を含む。)	調査中	緊急通報システム	何らかの火源が居間の布団に着火した。	高齢者宅の緊急通報システム火災センサー(熱感知器)が発報し、オペレーターからの呼びかけに対し、居住者から火災であることを聴取した後、消防へ通報したものを。消防への通報後、登録されている家族へも連絡した。その後、消防隊より先に着いた家族により、居住者を玄関で発見し救出した。火災は、到着した消防隊により消火され、居住者は、救急隊により病院へ搬送された。搬送時意識あり。
9	2	2:04	早朝	戸建住宅	煙式	居間	就寢室	その他	居住者	薪ストーブの灰をゴミ箱に捨てた後、火災になったもの	一般住宅に住む男性は、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、2階居間から煙が出ていたことから居間を確認すると、ストーブ背面から炎が上がっていたのを発見したため、自宅のバケツに水を汲み水を掛け消火したものであるが、完全に消火出来なかったものである。
10	3	5:47	早朝	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガステーブルのグリルの消し忘れ	居住者(87歳男性)が、魚を焼いた後に、ガステーブルのグリルの火を消し忘れて放置した。その後、台所の住宅用火災警報器が鳴動したので様子を見てみると、グリル内で油に着火していたため、ガステーブルの点火スイッチを切り、ガスの元栓を閉めて直ちに119番通報をした。119番への通報中にグリル内の火は自然に消え火災に至らなかった事例である。
11	3	22:00	深夜	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガスコンロの消し忘れ	家人が煮物を作っている最中に寝てしまい室内に煙が充填し住宅用火災警報器が発報、警報音に気づいた家人がガスコンロの火を止め大事に至らなかったもの。
12	3	18:30	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	鍋のかけ忘れ	電気コンロで夕食のうどんを調理して食事中、コンロに鍋を掛けたままスイッチを切り忘れたため、鍋が焦げて住警器が発報し、火災には至らなかった。
13	3	19:17	夜	戸建住宅	煙式	壁内	台所	その他	居住者	風呂窯煙突の壁面貫通部から発火	居住者(80歳女性)が、風呂を沸かすため風呂釜のスイッチを入れ、居間でテレビを見て沸くのを待っていたところ、台所に設置の住宅用火災警報器が作動、台所壁面より火が出ていたため、本人が玄関に置いてあった消火器を使い初期消火を行ったことにより被害を最小限に止めた事例である。なお、居間に緊急通報システム熱センサーが設置されており、消防機関が感知したものである。
14	3	6:14	朝	アパート・マンション等	煙式	脱衣所	就寢室	調査中	その他	調査中	脱衣所内の壁面に設置されている分電盤内から出火し脱衣所内の壁を焼損したもので、出火室の上階の居住者が住宅用火災警報器の鳴動音のような音がしていることに気づき、自宅に設置している住宅用火災警報器を作動させたところ、同様の鳴動音だったことから、下階居室が火事になり発報しているのではないかと思い119番通報したもので、早期通報したことにより延焼拡大しなかった事案。

平成27年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)  
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、  
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
15	3	15:00	夕方	その他	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者がガスコンロでカレイの煮付けを調理中、客の対応でその場を離れていたことにより加熱され続け、カレイの煮付けが焦げ発煙し、居間に設置していた住宅用火災警報器が作動。居住者が警報音に気づきプロパンコンロの火を消したことから火災に至らなかったもの。
16	4	2:00	早朝	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	緊急通報システム	鍋の空焚き	居住者(91歳男性)が深夜に甘酒を片手鍋で温めていたが、コンロの火をつけたまま寝込んでしまい、充満した煙により台所に設置していた火災センサーが作動し、安全センターの音声で目覚め、コンロの火を消したもので、火災に至らなかった事例である。
17	4	5:24	早朝	アパート・マンション等	煙式	階段	その他(不明を含む。)	ストーブ	その他	洗濯物がストーブに触れ出火したもの。	居間のストーブ付近に干していた洗濯物が燃焼中のストーブに触れ着火し出火したもので、介護に訪れていた居住者の息子が住宅用火災警報器の鳴動音に気づき火災を発見、初期消火を実施し消火に成功したことで、火災が拡大せず、洗濯物と床の一部を焼損したが、ぼやで済んだ事案。
18	4	20:32	夜	アパート・マンション等	煙式	居間	その他(不明を含む。)	調査中	隣人	調査中	隣室居住者が、自宅居間でテレビを見ていたところ、「ピーピー」という音を聞き、玄関に向かったところ、煙の臭いがしたため、玄関を開けて確認すると、廊下に煙が充満しており、火災だと思い一旦自宅に戻って家族を避難させたのち、119番通報したもの。なお、出火室居住者にあつては、白煙が充満していた室内に倒れていたところを消防隊に発見され病院搬送。
19	4	16:14	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガステーブルのグリルの消し忘れ	長屋住宅に住む少年は、居間でゲーム中に住宅用火災警報器の警報音で台所のガステーブルからの出火に気づき、兄に知らせた。自室に助けを求めてきた兄から火災の発生を知らされた隣人が出火室に向かうと室内に煙が充満し、ガステーブルのグリルから炎が立ち上がっていたため、ボウルに水を汲み水を掛け消火したもの。
20	4	11:09	昼	アパート・マンション等	煙式	居間	就寢室	火遊び	居住者	子供(当3歳)のライターによる火遊び。	耐火5階の共同住宅1世帯4名が居住する4階居室から出火したものであり、当時母親と子供(当1歳)が寝ている間に、別の部屋にいた子供(当3歳)がライターを使い火遊びしていたところ、周囲の布団に着火し出火、4階住戸1室を焼損、5階直上階の一部に延焼した火災であるが、住宅用火災警報器が作動し寝ていた母親が鳴動音に気づき火災を発見、子供を連れ避難するとともに、すぐに119番通報したため、死者・負傷者を出さなかった事案。
21	5	9:10	朝	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	鍋の空焚き	共同住宅1階の一室で女性が、洗浄した鍋の水を蒸発させるため、ガスこんろにかけて火を付けたまま忘れてしまい、煙が発生し、住宅用火災警報器の作動により気が付き、119番通報したものである。(消防隊到着時、ガスこんろの火は安全装置が作動し、自動的に消火されていた。)
22	5	9:02	深夜	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	その他	鍋の空焚き	市営住宅に住む男性がガスこんろに鍋を置いて火をつけたまま外出し鍋がから炊き状態になって発煙し居間に設置の住宅用警報器が発報。臭いと警報音に気付いた同棟の居住者が119番通報した。到着した消防隊がこんろの火を消したものである。
23	5	1:02	深夜	アパート・マンション等	煙式	居間	就寢室	たばこ	隣人	たばこの不始末	火点室の隣人が就寝中、隣室の住宅用火災警報器の鳴動音で目を覚まし、窓から同室を確認したところ、黒い煙を確認したため119番通報した。的確なその通報と、到着した消防隊への速やかな隣室居住者情報(身体不自由者等)の提供により、就寝中の同居住者が、消防隊により生命に異状なく早期に救出された。
24	5	21:00	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	緊急通報システム	コンロの火の消し忘れ	居住者が、鍋をコンロにかけてそのまま火を消さずに就寝してしまったところ、警報器が作動し連動緊急通報装置により市内のタクシー会社に連絡が入り、すぐに近くの運転手が確認し、焦げ臭い匂い及び室内の応答がないことから119番通報した。その後、到着した消防隊が室内に侵入し火災を未然に防げた。
25	5	9:32	朝	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	その他	鍋の空焚き	市営住宅に住む男性がガスこんろに鍋を置いて火をつけたままサービス施設利用のため外出し鍋がから炊き状態になって発煙し居間に設置の住宅用警報器が発報。警報音と臭いに気付いた同棟の居住者が119番通報した。到着した消防隊がこんろの火を消したものである。
26	5	17:20	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガスコンロにフライパンをかけたまま放置したもの	アパート3階に住む女性が冷凍魚フライを揚げようと、卵焼き用の小さなフライパンに油を入れ、過熱した後5分ほど目を離れたところ住宅用火災警報器が発報、過熱した油から炎が上がっていたもので、女性が119番通報し濡れタオルで初期消火したものである。(消防隊到着時、消火済み)
27	5	10:20	昼	戸建住宅	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	ガスコンロにフライパンをかけたまま放置したもの	居住者女性が、ガスコンロにフライパンをかけたままその場を離れて放置したため、炒めていた肉、ニラが炭化し発煙した。台所傍の寢室で仮眠中に同寢室の住宅用火災警報器(煙式)が作動。警報音に気づき、ガスコンロの火を止めたため、火災には至らなかった。

平成27年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)  
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、  
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
28	5	5:59	早朝	戸建住宅	煙式	その他(調査中を含む。)	その他(不明を含む。)	ストーブ	緊急通報システム	ポット式石油ストーブに可燃物の接触	居住者(82歳女性)が、ポット式石油ストーブの天板上に新聞紙を置いたまま就寝した。点火タイマーが設定されストーブが自動点火したため新聞紙が燃え、発生した煙で緊急通報システム連動の住宅用火災警報器が感知したことにより消防が覚知した。初期消火は、居住者が水で濡らした雑巾を燃えた新聞紙に被せて消火した。
29	5	13:40	昼	アパート・マンション等	煙式	台所	就寝室	こんろ	居住者	加熱中のでんぷら鍋の放置	居住者(48歳 女性)が、台所のプロパンガステーブルにてんぷら鍋をかけ、加熱していたことを忘れ放置したまま、浴室にいたところ、住宅用火災警報器が作動したのに気づき、台所に戻るとでんぷら鍋より火が上がっているのを発見、119番通報した後、浴室に戻りバスタオルを濡らし、濡らしたバスタオルをでんぷら鍋の上にかけて消火した。
30	5	3:01	早朝	戸建住宅	煙式	その他(調査中を含む。)	その他(不明を含む。)	調査中	居住者	調査中	2階の寝室で就寝中、住宅用火災警報器の警報音で起き、階段を降りている途中、煙の臭いがし、風呂場を確認したところ煙が噴き出していたことから、居間にあった携帯電話を持ち、屋外へ避難した後、119番通報した。初期消火は避難優先のため行われていない。
31	5	14:15	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	隣人	コンロの火の消し忘れ	居住者が、鍋をこんろにかけたまま火を消さずに外出してしまったところ、上階に住む住民が階段で、住宅用火災警報器の警報音と煙に気づき、火事だと思い自宅から119番通報した。こんろにかけた鍋から煙が発生、台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動したものであり、現場到着した消防隊がこんろを止めて火災を未然に防いだ事例。
32	6	8:10	朝	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	IHコンロに鍋をかけたままその場を離れる	家人(84歳女性)が、鍋の内容物を温めるためIHコンロに鍋をかけた後、仏間にてお参りをしていたところ鍋が放置状態となり、内容物が焦げて居間に設置していた緊急通報システムの火災センサー(煙式)が作動し消防覚知。応答があり家人は鍋をIHコンロから取り除き換気を行っており、火災の危険性はないとのことだが現地向かう。家人は警報音に気が付き戻って来たところ鍋から煙が出ていたので、鍋をシンク内に移動し水を掛けたことにより火災には至らなかったものである。
33	6	17:00	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	ガスこんろにフライパンをかけたまま放置したもの	居住者(19歳女性)が台所のプロパンガスコンロにフライパンを掛け、肉を調理しながら居間で掃除をしていたところ、タレが焦げ発煙、居間に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が作動、本人がその警報音に気づきプロパンガスコンロを確認すると、安全装置が作動し消火されていたため火災に至らなかった事例である。
34	7	2:20	早朝	戸建住宅	熱式	居間	台所	たばこ	居住者	たばこの火の不始末	当該建物居住者夫婦が2階寝室にて就寝中、1階台所に設置の住宅用火災警報器の警報音に気づき、1階居間のドアを開けたところ、居間全体が煙に覆われ床面から炎が上がっていた。その後、直ちに屋外へ避難するとともに、隣宅に駆け込み消防通報を依頼した。本事案については、住宅用火災警報器の警報音により、早期に避難できたこと、さらに隣接建物への延焼を防ぐことが出来たものである。
35	7	12:29	昼	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	フライパンの油を加熱中、目を離してしまった	1階台所のガステーブルで揚げ物の準備のためフライパンに油を入れ火をつけその場を離れたため、油が過熱され発煙したことで1階居間の住宅用火災警報器が作動し、居住者が鳴動音に気づき、ガステーブルのスイッチを切ったため、火災には至らなかったもの。
36	7	18:55	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	就寝室	こんろ	隣人	ガスコンロの消し忘れ	居住者(29歳女性)が台所のガスコンロ上の天ぷら鍋に火をかけたのを忘れ外出していたところ、住宅用火災警報器が作動し警報音に気付いた隣人が家から煙が出ているのを発見。居住者本人及び消防へ連絡し、消防隊が到着した時にはすでに居住者は戻っており、本人によりガスコンロは消され煙が充満したのみで、火災に至らなかった事例である。
37	7	10:00	昼	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	通行人	鍋の空焚き	マンションに住む男性がガスコンロにて調理中に飲酒し就寝、鍋から煙があがり居間に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。付近住民がマンションから住宅用火災警報器が鳴っているのを確認し消防へ119番通報。消防隊現場到着時、住宅用火災警報器は鳴動しており、ガスコンロでの鍋の空焚きを現認する。なお、台所にも住宅用火災警報器(熱式)が設置されていたが作動しなかった。
38	8	7:00	朝	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	緊急通報システム	ガスコンロにフライパンをかけたままその場を離れる	家人(81歳女性)が、鍋の内容物を温めるためガスコンロに鍋をかけた後、外に出て畑作業をしていたため鍋が放置状態となり、内容物が焦げて居間に設置していた緊急通報システムの火災センサー(煙式)が作動し管理会社が覚知。管理会社からの連絡で消防覚知。すでに管理会社職員が現地で状況を確認しているとの通報であったが、確認のため出動する。家人は警報音に気が付き室内に戻って来たところ鍋から煙が出ていたので、鍋をシンク内に移動し水を掛けたことにより火災には至らなかったものである。





